

感性のデータ化(3)

テンポ変化(その2)

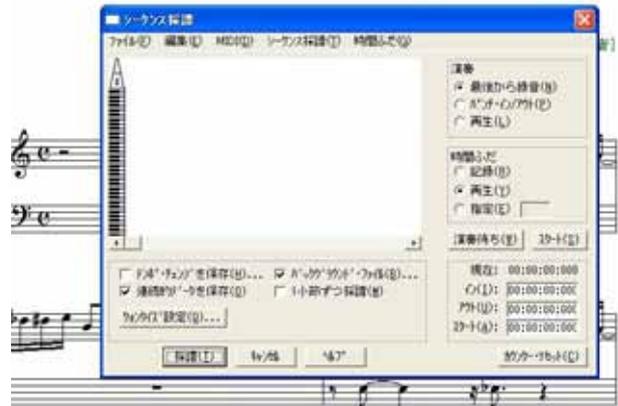
リズムパターンが生命線であるポップスには「揺れるテンポ」の概念はスローバラードやシャンソン以外にはほとんどありません。逆に言えばポップス以外にはほとんどもありません。逆に言えばポップス以外にはほとんどもありません。前に小節管理の出来たSMFと出来ていないファイルの話をしました。HC2000のようなテンポトラッキングを必要とするソフトでは楽譜通りの小節線が設定されていないと現在の演奏位置をトレース出来ないため、SMFなら何でも使えるわけではないことはずでにお解りのことと思います。

メトロノームを無視した生演奏で記録された多くのmidiファイルは極端な場合、同じ拍に有るべき複数の音ですら微妙にずれているのが普通です。ピアノの右手がわずかに左手より後で出るような場合とか和音をアルペジオ風に演奏したような場合です。わずかに拍の位置がずれた演奏の場合丹念に「クアンタイズ」を繰り返せば何とか小節や拍の位置を固定できますが、120に設定されたメトロノームを完全に無視して80とか200で演奏されたものはもう完全にお手上げです。

そこで、Finaleの「リアルタイム入力」とそれを採譜する「シーケンス採譜」を使います。

リアルタイム入力ツールは、Finaleのリアルタイム・シーケンス採譜ツールの1つです。このツールを使って、生のキーボード演奏を楽譜へシーケンス採譜することができます(2つのパート譜に記譜することもできます)。このツールをクリックすると、[リアルタイム入力]メニューが表示されます(下図)。このメニューには、これから演奏しようとしている曲をシーケンス採譜するのに必要なすべてのコマンドが入っています。

演奏に先立ち採譜したい位置の空白の小節をクリックします。すると「シーケンス採譜」のウィンドウが開かれます。このウィンドウを使用すると、シーケンス採譜モードでの生演奏をどのようにシーケンス採譜するかをコントロールすることができます。このウィンドウでは「時間ふだ」とい



うタグを拍と一致する音符に貼り付けるための設定が色々できるようになっています。上の画面はまだ何も入力されていない、つまり「演奏待ち」の状態です。1小節づつ確実に採譜する方法もあるこのウィンドウは「パンチ・イン/アウト」以外にすでに採譜済みの楽譜の後に追加というモードもあります。

このウィンドウを使ったまともな使い方はもう皆さん経験済みかも知れませんが、私の考案した方法は後から時間ふだを貼り付けるのではなく、最初に「時間ふだ」だけを記録するという方法です。富田勲氏がかつてアナログテープレコーダに予め「ガイドパルス」というテンポの揺れを初めから含んだメトロノームを録音したのと同じ考えですが、後からテンポ修正の効かないアナログテープほどシビアでは有りません。

リアルタイム録音後、時間ふだを特定の音符から生成出来る機能を使って、予め曲想通りタッピングしてそれを録音し、その音を拍の基準として基準音とテンポ変化だけのMIDIデータを作り、それに音楽を埋め込むわけです。勿論手弾きでタッピングしますが、曲想が湧かない時はCD等に合わせて指揮者気分でもタッピングしても良いでしょう。具体的な方法は次号で紹介しますが、やってみたい人はまず普通の使い方を経験しておいて下さい。



リアルタイム入力モードにする